2026 年度第３回ふれあい講座実施報告

実施日時：2026 年 10 月 23 日(金)19:00～20:30　**場所**：JICA 沖縄体育館
来場者数 64 名（一般 43 名）（ゲストスピーカー研修員 10 名）（他コース研修員 1 名）（関係者 10 名）

JICA 研修員(出身国)

Ms.ルシ(アルゼンチン)、Mr.ナウエル(アルゼンチン)、Mr.ルイス・エルネスト(ボリビア)、Ms.サチコ(ボリビア)、Ms.ユミ(ブラジル) Mr.タカオ(ブラジル)、Ms.サブリーナ(ブラジル)、Ms.シャロン(コロンビア)、Ms.ネリナ(キューバ)、Mr.ルイス・エンリケ(ベネズエラ)

当日の様子

第３回ふれあい講座は、日系社会集団研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」および「沖縄空手文化研修」の研修員の皆さんをゲストスピーカーに迎えて開催しました。前回に続き、今回も日系研修員の皆さんということもあり、流暢な日本語で自己紹介をしていただきました。

まずは、研修員の出身国にまつわる三択クイズを実施しました。通貨や食文化、建築物、国獣など、多岐にわたる問題が出題されましたが、中でも参加者から大きなどよめきが起こったのは、ベネズエラの習慣に関するクイズでした。首都カラカスでは、クリスマスの朝に「ローラースケート」で教会へ向かうという習慣があるそうです。まるでお祭りのような楽しげな季節の風物詩に、会場からは驚きの声が上がりました。また、ベネズエラ出身のエンリケさんも「子どもの頃はその習慣を楽しんでいました」と、当時の思い出を参加者に語ってくれました。

今回のパフォーマンスタイムは二部構成で行いました。一部では、研修員全員による沖縄空手の演武が披露されました。基本となる「突き」や「前蹴り」などを紹介した後、「普及型Ｉ」を演武しました。研修員はそれぞれ異なる流派で稽古に励んでおり、型にも違いが見られることから、空手の「多様性」について紹介されました。沖縄空手の奥深さを知る貴重な機会となりました。今回、空手コース以外の研修員も参加していましたが、この日のために全員で練習を重ねてきたそうです。空手が今や「世界の KARATE」として親しまれ、各地で継承されていること、そして言葉の壁を越え、武道という共通言語を通して空手の精神や技を体現しようとする研修員の真摯な姿勢に、参加者も大きな刺激を受けたと思います。

二部では、各国のダンス（チャカレラ、サンバ、ブリンカオ、ホローポ、サルサ、マンボ、コンガ）が披露されました。研修員の踊りに続いて参加者も輪に加わり、親子や友人同士で踊るなど、会場全体が一体となって盛り上がりました。子どもから大人まで、皆が音楽に合わせて体を動かし、会場は陽気なラテンの雰囲気に包まれました。

参加した高校生からは、「様々な国の方と交流できて、文化や生活習慣を学べてとても楽しかった」「学校生活では経験できないことが、このふれあい講座にはあります」といった感想が寄せられました。また、研修員を代表してアルゼンチン出身のナウエルさんは、「私たちに会いに来てくれて、ありがとうございます。地元の皆さんと直接交流ができて、すごく感動しました。いつか私たちの国々へも来てください」と、参加者への感謝と交流への喜びを伝えてくれました。

次回は 12 月 4 日（金）19:00 から開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

会場の様子

研修コース紹介



研修員全員での空手演武



大盛り上がりのダンス



各国ブースにて交流(コロンビア)



イラストによる空手の型紹介



集合写真

